

作業療法士について



最近リハビリテーションという言葉はよく聞くけど、作業療法士って何をしてくれる人なんだろう？

作業療法士とは
「心と身体のリハビリテーションを行う専門家」です！



✓ 作業療法ってなに…？

作業療法は、病気や怪我などによって【作業】ができなくなった方に対して行われます。【作業】とは、人が行う食事、着替えなどの日常生活活動・家事・仕事・遊び・余暇などのすべての事を言います。それらは**やりたいこと、やらなければならないこと、他者に期待されていること**のいずれかであり、個人の価値観や文化の違いによっても様々です。それらを丁寧に紐とぎ、対象となる方ができなくなった作業を再獲得できるように行われるものです。

例えば、利き手の麻痺によってお箸を使えなくなってしまった人がいるとします。その人が「またお箸でごはんを食べたい！」という気持ちを持っているのであれば、麻痺の回復を促し、並行して実際にお箸を使う練習をしたり、食事の形態や箸の種類を変えるなど、その人がお箸を使えるように工夫を行います。心身機能のみでなく、取り巻く環境の調整、作業のやり方や手順を工夫することで、『**作業の再獲得**』を目指していきます。



「またお箸でごはんを食べたい！」



麻痺の回復



箸を使う練習



食形態の調整 等々



そうなんだ！じゃあ作業療法士に相談したいときは、どこで会えるのかな？

医療や福祉の現場はもちろん、最近は教育現場や就労施設など、様々な場所で活躍しています！今回は当院で行っている作業療法の一例を紹介します！



当院の作業療法の特徴

整形外科疾患



特に肩関節周囲炎、肩腱板断裂をはじめとする肩疾患、リウマチで生じる手関節や手指の変形、手指腱断裂に対する術後、手・肘・肩の骨折に対する術後等に多く関わっています。元の生活が再獲得できるように、運動療法や生活動作の指導を行います。

リウマチ性疾患



関節の変形予防のために、普段の生活の中で行える関節保護の説明や自助具（使いやすくなるよう工夫された身の回りの道具）の紹介をしています。また、変形や痛みで手が使いにくい方に対しては、手や指のスプリント（関節の保護や手が使いやすくなる装具）も作製しています。

小児神経疾患



自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如/多動性障害などの発達障害、脳性麻痺や染色体異常、その他発達の遅れのあるお子さんが通っています。子どもたちの困りごとへの対応だけでなく、ご家族に対しても日常的な接し方などもお伝えしています。また、園・学校の先生に対しても、ご家族を通じて（情報提供書などを活用）子どもの状態をお伝えできるようにしています。

小児のリハビリテーションを行う医療機関は少なく、小児リハビリテーションにおける県南西部の基幹病院の一つとなっています。

緩和ケア



患者さんが望む生活に近づけるよう、痛みや精神的苦痛に配慮しながら一人ひとりに合わせたプログラムを行います。患者さんが大切な時間を過ごすために、ご本人にとって大切な作業活動を入院期間中も継続できるように、ご希望に添ってアプローチを行います。